



ILLUSIONIST: GAKU

1964(昭和39)年、大阪市生まれ。テーブルマジックからステージのイリュージョンまで多彩なプログラムで観客を魅了。メディア出演等も
<http://gaku-magic.com/>

「プロというのは、言ってみれば仕事をやるのもしないのも自由です。でも、自由だからその責任というものがあつては続かない厳しいものでもあります。でも、

「おもしろいのは、同じ演目であっても地域によって反応がまちまちだということ。これは漫才師の方々もよく言われます。関西の方は何でも反応が早いんですよ、でも地方に行けばいくほど拍手もバラバラ。『あかん、全然受けへんかった』と、しょげながら楽屋に戻ると、主催者側から『今日はすごい盛り上がりでしたね』と言われることもあるんです。このコロナ禍においては自粛期間もありましたし、イベントがほぼなくなりましたので、家でキッチン周りのリフォームなどDIYばかりしていました。マジックだけに手先は器用ですしね(笑)。そもそもイリュージョンの仕上げなどアメリカ製のものは大きすぎて車の荷台に乗らないこともあり、サイズを日本人の体型に合うよう自分で作り直すことも多いわけです。」

「世の中を明るく照らしましょう」とGAKUさん。学校での公演やホームパーティーなど、どのようなオーダーでもお気軽に相談を!

「なんでも」の一言がものすごく心地よくて、それから、百貨店のマジックコーナーに通いつめる日々が始まりました(笑)。

「最初は別の仕事をしながら、掛け持ちでマジックの活動をしていたのですが、この道一本で生活していけると確信したのは三十代後半ですね。会社員だけなら知り合う人は少ないですが、ぼくの場合はマジックを通じて幅広い人たちと交流があったのが良かったですね。人脈というよりも、若いうちに様々な考え方があつたことを実感できたのが良かったと思います。」

「対象の年齢層に合わせて、必ず目線を合わせるということですね。幼稚園児や児童が相手だと、積極的な子ではなく、引っ込み思案でおとなしい子たちもいます。そんな時は、『ちよつとこのカードを引いてみて』とみんなを巻き込むんです。小学校では、マジックショーに参加してくれた子どもたち全員が感想文を書いてくれたこともあります。全学年2百名分でしたから、学年が上がるにつれて文章を書くスキルが上がっているのがよくわかります。おもしろいのは、同じ演目であつても地域によって反応がまちまちだということ。これは漫才師の方々もよく言われます。関西の方は何でも反応が早いんですよ、でも地方に行けばいくほど拍手もバラバラ。『あかん、全然受けへんかった』と、しょげながら楽屋に戻ると、主催者側から『今日はすごい盛り上がりでしたね』と言われることもあるんです。このコロナ禍においては自粛期間もありましたし、イベントがほぼなくなりましたので、家でキッチン周りのリフォームなどDIYばかりしていました。マジックだけに手先は器用ですしね(笑)。そもそもイリュージョンの仕上げなどアメリカ製のものは大きすぎて車の荷台に乗らないこともあり、サイズを日本人の体型に合うよう自分で作り直すことも多いわけです。」

「世の中を明るく照らしましょう」とGAKUさん。学校での公演やホームパーティーなど、どのようなオーダーでもお気軽に相談を!

「もともと目立ちたがりやだし、もてたい一心で始めたんですけどね(笑)。

「好きなことをそのまま職業として生業にできる人というのは稀だと思えますが……。」

「おもしろいのは、同じ演目であっても地域によって反応がまちまちだということ。これは漫才師の方々もよく言われます。関西の方は何でも反応が早いんですよ、でも地方に行けばいくほど拍手もバラバラ。『あかん、全然受けへんかった』と、しょげながら楽屋に戻ると、主催者側から『今日はすごい盛り上がりでしたね』と言われることもあるんです。このコロナ禍においては自粛期間もありましたし、イベントがほぼなくなりましたので、家でキッチン周りのリフォームなどDIYばかりしていました。マジックだけに手先は器用ですしね(笑)。そもそもイリュージョンの仕上げなどアメリカ製のものは大きすぎて車の荷台に乗らないこともあり、サイズを日本人の体型に合うよう自分で作り直すことも多いわけです。」

「世の中を明るく照らしましょう」とGAKUさん。学校での公演やホームパーティーなど、どのようなオーダーでもお気軽に相談を!



撮影/岩井 進 取材・文/橋 雅康 取材協力/日能研南森町校

「マジックです。身近なところにプロのマジックはそういませんからね(笑)。各地のホテルなどで開催される催しや企業のパーティーのほか、学校での公演、レストランでのマジックショーなど様々です。もちろん、手品を中心としたイベントも定期的に開催しています。基本的にはステージ環境や参加者数など求めに応じて、マジックやイリュージョンのプログラムを考えていきます。」

「もともと目立ちたがりやだし、もてたい一心で始めたんですけどね(笑)。

「好きなことをそのまま職業として生業にできる人というのは稀だと思えますが……。」

「世の中を明るく照らしましょう」とGAKUさん。学校での公演やホームパーティーなど、どのようなオーダーでもお気軽に相談を!

日能研PRESENTS

私立中高一貫校の発想力と表現力

混迷を極める時代を切り拓くために必要となるのは、独自の発想力と表現力。こればかりは、画一的な教育ではなく、多彩な私学教育の中だからこそ育まれるものと言っても過言ではありません。まずは、物事の見方について、イリュージョニストのGAKUさんに話を伺ってみました——